

## 令和6年度 第1回 学校運営協議会 議事録

1 日 時 令和6年5月22日（水）午前9時30分から11時30分まで

2 場 所 静岡県立静岡視覚特別支援学校  
（静岡県立静岡南部特別支援学校 会議室）

3 参加者 計13人

学校運営協議会委員 6人

静岡県立大学短期大学部 特任教授

地区町内会 民生委員

交流校 PTA 会長

地区自治会 会長

就労継続支援施設 施設長

本校 PTA 会長

本校職員 7人

校長、副校長、事務長、小中高等部主事、教務主任

4 内 容

(1) 学校運営協議会委員任命状 伝達

(2) 自己紹介

(3) 会長・副会長選出

会長 静岡県立大学短期大学部 特任教授

副会長 地区町内会 民生委員

(4) 会長挨拶

(5) 校内参観

5 協議（司会 会長）

(1) 学校経営計画及び取組について（学校長説明）

(2) 御意見や御質問それに対する回答

\* 運：学校運営協議会委員からの質問、意見、感想等

学：本校職員の回答

運：交流はどここの学校と行っているか。

学：近隣だと、幼稚部は小黒こども園、小学部は西豊田小学校、中学部は豊田中学校の特別支援学校と交流を行う予定。その他には、希望があれば居住地の小中学校と交流籍を活用した交流及び共同学習を実施している。

運：学区が広いが、災害時の引き渡しについてはどのように対応しているか。

学：保護者への引き渡しを基本としている。しかし、遠方からの迎えが難しい場合も想定し、6日分の食料等を備蓄したり、寄宿舍を利用したりと対応を考えている。また、広域の地図を活用し、災害時の様々なリスク等についても考えていく予定。

運：一般の小中学校では、クロームブック(一人一台端末)の活用が進み、持ち帰りも行っている。本校でも、持ち帰りや貸出ができるとよい。

学：本校ではiPadが一人一台端末として県より支給されている。持ち帰りについては保障面で課題があり、検討はしているが進んでいないのが現状。高等部の事例ではあるが、持ち込んだ個人端末をネットワークに接続する(BYOD)の取組も今年度より始まったので、それらも活用できるとよい。また家庭と連携しながら進めたい。

運：幼児児童生徒数の減少については、少子化以外に要因はあるか。

学：正確な数値までは把握していないが、通常の学校への在籍も増えていると感じている。活用しやすい視覚支援機器が増えたことや、障害者基本法の合理的配慮が浸透してきたことが理由だと考える。本校としても、ずっとこの場で学ぶのではなく、必要な力を身につけたら違う場所で力を発揮することも選択肢の一つとして考えている。

運：他の施設等への周知はどのように行っているか。

学：眼科や市町の保健師等と連携することで、子どもについては早期から教育相談につなげる等の取組がなされている。成人については把握が難しいところがあるが、積極的に理解啓発活動を行うことで埋もれてしまわないように努力をしている。

運：キャリア教育について具体的にどのような活動を行うのか。

学：キャリアパスポートを作成し、就労や社会での役割につながるような取組について記録を継続的に残していく。例えば、1学期の目標や係活動などが対象として考えられる。

運：自治会としても協力したい気持ちはあるが、特に弱視については分からないことが多く、また、それは聞きにくいことであると感じている。体験等を通して理解する場があればありがたい。

### (3) 学校経営計画の承認

学校運営協議会委員全員からの承認を得る。

## 6 各学部の取組について説明(学部主事からの説明)

## 7 閉会